

男女共同参画だより

～地域で広がる笑顔の輪～

「男女共同参画」と聞くと、「難しい」「よくわからない」と思うかもしれませんが、実はごく身近にあるものです。そんな身近なところにある男女共同参画や、市町の地域推進員が日頃行っている男女共同参画推進活動を紹介します。ぜひご覧ください！

絆を乗せて、発車オーライ！

芝山町（石井正恵）

「かゆい所に手が届く業者を目指し、お客様に満足を」をモットーに二人三脚で頑張っている、芝山町の紅仙観光自動車(株)で働く石田紀一さん・智子さんご夫妻にお話を伺いました。智子さんは結婚と同時にご主人を手伝う為、未経験の観光業へ飛び込み予約業務・経理・庶務に至るまでオールラウンドに活躍されています。ゼロから覚えることばかりで分野も多岐にわたるため大変なことも多かったと思います。それでもお客様に「良いバスだね！」



「乗務員さんのおかげで楽しい旅行ができた！」と喜んで頂ける事が頑張るエネルギーになるそうです。三人のお子さんがいるので仕事と家庭の両立は大変だそうで、旅行シーズンに入ると帰宅が遅くなり、子供の塾や部活動の送迎、下のお子さんの世話、夕食作りにその他の家事など智子さん一人では対応しきれないそうです。そんな時はご主人が大活躍で家事・育児を手伝ってくれるとのことで、ご家族の協力が智子さんを支えています。また、智子さんはもっと専門知識を身に付けるためバス業の資格にもチャレンジしたいと抱負を語ってくれました。まだ収束の見えないコロナ禍の中で「お客様の楽しい思い出づくり」のため全力で頑張るご夫妻は紅仙観光のバスに描かれている二羽の羽ばたく鶴のようで、旅行の際には是非このバスを利用してみたいと感じました。

市民の力で男女共同参画推進

匝瑳市 企画課 企画調整班担当



匝瑳市男女共同参画推進委員会は、各団体の構成員、公募委員等と、年齢も立場も多彩な方で構成されています。委員の「会議だけではなく、ぜひ推進活動も手掛けたい」との希望の下で、県の事業を参考に、男女共同参画講演会の際に寸劇を実施したところ、市民の方から、大変わかりやすかった等の声を頂くなど大好評でした。また、「そもそも男女共同参画って何か」や「市民に知ってもらう必要がある」という意見が委員からあり、委員間で協議した結果、匝瑳市の「男女共同参画に関するあるある」を盛り込んだパンフレットを作成し、全戸配布を行いました。もっと「市民に男女共同参画の輪を広げたい」という思いを持って、各委員はこのコロナ禍でもできる活動を模索してくださっています。行政だけではできない市民からのアプローチを、事務局としてもとても心強く、また、楽しみにしています。



2020年4月、「そよかぜのように爽やかに楽しいひと時の風を吹かせたい」と願い、誰もが気軽に立ち寄れる場所として、「楽学ハウスそよかぜ」を立ち上げ、コロナ禍の中でもパワフルに動き始めた井出史子さん。生活の中のちょっとした困り事を減らそうと「お手伝い隊」をスタートさせました。さらに、井出さんの人脈を活用し、書道、そろばん、英語、陶芸教室や出張ヘアカットも行っています。また、月に一度、ハーバリウム教室などの様々なワークショップを開いたり、食品製造会社と提携した予約販売も行っており、ご近所の皆さんに大変好評です。次々に、新しいことにチャレンジしている井出さんのエネルギーの源は「人とのご縁」にあるそうです。わずかな出会いの中から様々なワークショップの講師が誕生するなど人を引き付けるパワーを強く感じました。そんな井出さんのモットーは「一日一生」。一日一日を悔いなく生きることだそうです。「みんなができることを少しずつやると住みよい社会になりますね。」とも話して下さいました。地域の皆さんに「ここに住んで良かったと思える人生を送ってほしい」という願いがそよかぜとなって、ますます広く爽やかに吹き渡りますように祈っています。

ふたりの思いが、いちばんの栄養 ―農薬を使わない野菜づくり―

山武市（佐藤君江）

農家の高齢化や後継者不足が課題となっている中、市内で農薬を使わない農業を始めた江波戸康裕さん・澄子さんご夫妻にお話を伺いました。康裕さんは、アトピーで食事療法を行ったことから食と健康に興味を持ち、農薬を使わない農産物の生産者になったそうです。旅行好きの澄子さんは、バックパッカー旅を経て「綺麗だけど個性がない野菜より、生き生きとした野菜を作る有機農業がかっこいい。」と思い、農業を始めたそうです。そんなお二人の出会い、有機農業に取り組む「さんぷ野菜ネットワーク」の集会。「ここには何でも相談できる先輩や仲間がいる。この仲間がいるから頑張れる。」とお二人は仰っていました。お二人に目標を尋ねると、口を揃えて「まず有機JAS認証事業者になること。そして有機農業で安定した収入を得ること。」と話してくれました。食べることは生きること。「安全でおいしい野菜を作っていきます。」と頑張るお二人に、心からエールを送ります。



千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高める必要があります。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内6つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報誌などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。



平成21年から男女共同参画を多くの方に知ってもらいたいという思いで、町産業祭・文化祭で、行政の協力を得て展示コーナーを開催することが出来ました。1年目は「男女共同参画」と「推進員の役割」を展示し、2年目は「家族で考える防災」をテーマにビニール袋とタオルで作るオムツや新聞紙で作るスリッパの作り方などを展示しました。毎年いろいろと考えながら展示

し、多くの町民の方々に見ていただいています。川柳を掲載した時には、来場者の方から（わかるー）（家の旦那に見せたい）などの共感のお声をいただき、男女共同参画について、町民の方に伝わっていると実感できました。平成28年にはタスキを作り、産業祭・文化祭で男女共同参画新聞と冊子などを配布しました。残念ながら令和元年度は台風15号の被害が大きかったため、また、令和2年度はコロナウイルスのため中止になりました。一日でも早く活動ができることを願っています。



みんなが笑顔で暮らしていける地域を目指して！

東金市（石川安子・古川煌子）

私たちは、この地域推進員を務めると同時に、偶然にも2人とも赤十字ボランティアの一員としても活動しています。始めたきっかけは、自ら志願してだったり、知人の誘いだったりとは異なりますが、人や地域とつながりたいという思いは一緒です。時には防災用テントの設営方法を学んだり、またある時には救急法の習得や、地域の防災訓練等で非常炊き出しをしたりと活動は本当に多岐にわたりますが、人とのつながりやふれあいを大切に、誰もがその地域でその人らしく暮らしていく、これは男女共同参画にも共通する考えだと私たちは思っています。赤十字と男女共同参画地域推進員、それぞれの活動の目的や種類は異なりますが、私たちの今期テーマ「地域で広がる笑顔の輪」を広げていくため、まずは私たちが笑顔で人と接し、笑顔の輪を広げたいと思います。



銚子市初の女性消防士の活躍に期待！

銚子市（金尾記子・岩瀬賢氏）



10月中旬銚子市消防本部を訪問し、本市第1号の女性消防士“土井香寿実さん”取材しました。土井さんは、幼稚園の頃から消防士に憧れを抱き、はしご車に乗せてもらった時に『かっこいい！』と感じたことをきっかけに消防士を目指されたそうです。「女性消防士がいて良かった。」の声が上がった時は嬉しく、また、施設見学会で女子小学生が「お姉さんのようになりたい！！」と言ってくれたことには感動したと話してくれました。救急救命士の資格を持つ土井さんが、最もやりがいを感じるのが救助現場での活動です。採用当初から銚子市第1号の女性消防士として

自分が道を切り開き、存在を伝えることが使命だと考えているとも語ってくれました。現場では男性同様に活動できない場面もあるとの事ですが、女性消防士の先駆者としてこれからも頑張してほしいです。

